

# 編集後記

7月は世界の平均気温が16.95度と観測史上最高を記録しました。国連事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、沸騰化の時代が到来した」と危機感を強調しました。欧米や中国では最高気温が50度を超えた所もあり、ギリシャやハワイ・マウイ島、カナダでは大規模な山火事が相次ぎました。なかでもマウイ島の広大なエリアが焼け野原になつた映像に大きなショックを受けました。地球上で人類が存続していくためには環境対策が喫緊の課題です。こどもたちの未来のために今すぐアクションを起こしていきましょう。

「誌上ギャラリー」天辰健二先生より「中秋の名月」「十六夜の月」です。鏡のように静かな錦江湾に映る月の道が神秘的です。

「論説と話題」は鹿児島市医師会病院の経営改善に向けた10年間の取組（後半）です。多くの患者様の紹介をお願い申し上げます。また、九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会の報告をいただきました。ご一読ください。

大瀬克広先生より「かごしま国体に向けて」、橋口知先生より「スポーツドクターとしての国民体育大会との関わり」です。大会を支えるスポーツドクターの役割についてわかりやすく教えていただきました。令和2年のコロナ禍の中止を乗り越え51年ぶりの鹿児島での開催となる「燃ゆる感動かごしま国体」は10月7日開幕です。

堂園光一郎先生より「女性アスリートの課題と対策」をご寄稿いただきました。利用可能エネルギー不足、無月経、摂食障害、骨への影響、月経調整等に留意して女性アスリート特有の対応が求められています。

「医師会病院だより」山口剛司先生より冠動脈CT検査の現状について、川田慎一先生より新しい超音波診断装置(GE社製Vivid E90)の特徴について紹介していただきました。

「学術」は古庄正英先生より「高齢者に腹膜透析という選択肢を届ける」です。腹膜透析の高齢者に対するメリットとしては①食事制限が少ない（カリウム制限が不要）、

②シャントが不要、③在宅療法であることが挙げられます。また高齢者福祉の3原則、①生活継続の原則、②自己決定の原則、③残存能力活用の原則を実現していくためにも良い手段となるようです。

平野照之先生より「脳梗塞の診断と治療：黒本から30年」です。目覚ましい治療の発展が紹介されています。ご一読ください。

「切手が語る医学」には、古庄弘典先生からモナコの薬物乱用反対、薬物乱用防止運動、結核菌発見100年をいただきました。いつもありがとうございます。

「随筆・その他」栗博志先生から「音楽の散歩道」その3です。ウィーンに留学しヨーロッパの第一線で活躍した鹿児島市出身のオペラ歌手・片野坂（大島）栄子の物語です。

「リレー随筆」は中村崇仁先生です。千葉県出身の先生が福岡⇒鹿児島⇒指宿⇒奄美大島と南下しながら現在の研修医生活に至っている様子が楽しく描かれています。次の行き先が気になります……

「区・支部だより」は、河野もと子先生に甲北支部会、岡村一幸先生に荒田支部会の模様を報告していただきました。各支部でコロナ前と同様に支部会が開催されるようになってきているようです。

第105回全国高校野球選手権記念大会（いわゆる夏の甲子園）で鹿児島県代表の神村学園が見事な戦いぶりで県勢として17年ぶりにベスト4まで勝ち進みました。準決勝では昨年王者の仙台育英高校に惜しくも敗れましたが、猛暑の中、ユニフォームが真っ黒に染まるほどひたむきにプレーする選手たちに多くの感動と勇気をもらいました。一方今年こそは悲願のJ2昇格を目指す鹿児島ユナイテッドFCは昨年同様夏場に失速してしまい、監督解任、GM辞任という苦しい状況です。ヘッドコーチから昇格した大島新監督のもと、意地を見せてほしいものです。期待しましょう！

（編集委員 今村直人）